研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-141	A-152	20-070	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Gender and past year serious psychological distress are associated with past year AUD: Time-varying results from the National Survey on Drug Use and Health (NSDUH; 2008-2017)

性別および過去 1 年間の深刻な心理的苦痛は、過去 1 年間のアルコール使用障害と関連する：2008 年～2017 年の薬物使用と健康に関する全米調査における時系列結果

執筆者

Verplaetse TL, Peltier MR, Roberts W, Pittman B, McKee SA.

掲載誌

Addict Behav. 2021 May;116:106815. doi: 10.1016/j.addbeh.2020.106815.

キーワード	PMID
性別、障害、アルコール、アルコール使用障害	33450666

要　旨

目的：アルコール使用障害（AUD）の発症率は、過去 10 年女性において増加、男性と比較して女性でライフイベントのストレスが新規 AUD と強く関連していることが確認されている。ストレスに関連する心理的苦痛と AUD との関連を検討した。

方法：2008～2017 年の薬物使用と健康に関する全米調査（n = 562,072）より、性別と過去 1 年間の深刻な心理的苦痛（SPD）と AUD 有無との時系列変化を調査した。SPD は精神的苦痛をあらわす Kessler-6 distress scale が 13 以上をあり、13 未満をなしとし、AUD は精神疾患の診断・統計マニュアル第 4 版 （DSM-IV）にて過去 1 年間のアルコール乱用又は依存有の場合に AUD あり、いずれもなしの場合に AUD なしとした。性別および SPD と過去 1 年間の AUD との関連は二値ロジスティック回帰分析を行い、オッズ比を用いて評価した。さらに、性別と SPD、および性別と SPD と調査年の交互作用を確認した。

結果：過去の AUD の有無にかかわらず、SPD は性別と交互作用を認めた（$p < 0.0001$）。SPD により過去 1 年間の AUD オッズ比が上昇した（男性：OR= 3.33, 95% Cl= 3.15, 3.52、女性：OR = 4.39, 95% Cl = 4.14, 4.66）。性別、SPD、調査年の交互作用は認められなかった。

結論：心理的苦痛は男女ともに AUD の重要な要因であることは明らかであるが、女性においてはストレスなど他の要因により AUD が増加する可能性が示唆された。